



Good News for Japan **とぎのこえ**



十八歳の頃、東京の大森に住んでいた私は、年の初めに、自転車で鎌倉に行きました。お寺の雰囲気や森や浜辺の自然に癒され、普段味わうことのできないゆったりとした時を過ごしました。そして帰途についたのですが、途中ですつかり日は暮れ、道に迷ってしまいました。不安の中、大きな交差点で信号待ちをしていた二人連れの女性に、道を尋ねました。すると、とても親切に教えてくださり、私には、二人が、それは美しい天女のように思えました。気を取り直して、一月

の寒空の中、自宅に戻ることができたのでした。数年前のことです。代々木駅で山手線の列車に乗り換えました。混み合う車両の中で、なぜか空いている場所があり、「座れるかな?」と、空いている所に出た途端、はたと足が止まりました。街頭生活者と思われる方が、座席に寝ており、近くにゴミ袋とゴミが散らかっています。そのため、乗客は遠巻きにしていたのです。私は、救世軍の制服でその真只中へ出たものから、後に引けなくなりま

した。「おじさん、大丈夫ですか」と声をかけ、ゴミをゴミ袋に入れました。その人は、起き上がって座りました。「どちらまで?」と聞くと、なんと私の降りる駅でした。その駅に着き、私が降りようとする、彼は何やらジェスチャーをし、降りる気配がありません。彼を残して降りてから、そのジェスチャーは、もう一周して電車の中のゴミを拾うと伝えていたのだとわかりました。

旧約聖書に、モーセが、奴隷となっていたイスラエル

の民をエジプトから導き出したことが記されています。今から数千年前のことです。イスラエルの民は、四十年間荒野を放浪し、ようやく約束の地を目前にしました。モーセは、神様の言葉を人に取り次ぎます。「あなたが渡って行って得ようとする土地は、山も谷もある土地で、天から降る雨で潤されている。それは、あなたの神、主が御心にかけ、あなたの神、主が年の初めから年の終わりまで、常に目を注いでおられる土地である。」

余裕のない日常生活の中で、空の青、森の緑、大きく広がる海にハッと目を開かされ、心癒されることがあります。また、偶然出会った人が、尊敬すべき人格を有するかけがえのない存在であると教えられます。それらの背後で、神様は、今も私たちに目を注いでお

られるのです。モーセはまた、次のように神様の言葉を伝えました。「この国から貧しい者がいなくなることはないであろう。それゆえ、わたしはあなたに命じる。この国に住む同胞のうち、生活に苦しむ貧しい者に手を大きく開きなさい。」

現代においても貧しい人々がいます。経済的だけでなく、心にも貧しさを抱えて、時に、人生に行き詰まってしまう人も少なくありません。救世軍は、この時代を共に感謝して生活できるように、人々に寄り添う働きをしています。

あなたの手を大きく開いてください。その時、あなたも、そして同胞も心豊かにこの時代を生きることができると私たちは確信しています。

(救世軍士官(伝道者))

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。



手を大きく開きなさい

田中 禎一



〈信仰の体験談〉

信仰生活を全うしたい

えりす 宮原恵理寿



ガリラヤ湖(イスラエル)にて 後方はティベリアの町

教会との出会い

私が初めて教会に行ったのは小学校三年生の時です。小学校の友人に誘われて近くの教会の日曜学校に参加しました。

私の育った家庭はクリスマスチャンホームではありません。正月には神社へ行き、葬式は寺、同居していた祖母の寝室には神棚がありました。私は両方に手を合わせて生活していました。いろんな神様をお願いすることがいいと考えていたように思います。

守られていた青春時代

中学、高校はミッションスクールに通いました。ここでは聖書を学ぶ時間があり、毎日礼拝がおこなわれていました。夏には聖書の学びの宿泊研修、秋には修養会がありました。私はキ

リスト教のサークルに入っ聖書の学びをし、日曜日は近くの教会に通っていました。

中高の六年間で、多くのクリスチャンの話を聞く機会がありました。特に、高校の修養会で、ハンセン病の方の話を聞き、差別を受けたことや闘病生活の様子に涙が止まらなかったことを覚えています。

今振り返ると、六年間のキリスト教教育は、私を守ってくれていました。十代という多感な時、友人関係進路など多くの悩みがありました。毎日の礼拝で、賛美歌を歌い、聖書の言葉にふれ、先生のメッセージを聞き、祈る中で、神様に守られ、御言葉を通して悩みは解決して行きました。

離反と求め

けれども、高校生活も後

半になると、この生活から抜け出したいという思いが起きてきました。キリスト教教育から離れても私は大丈夫、という高慢な思いもあり、大学は宗教色のないところに進学しました。

大学在学中は、部活動のため日曜日は試合があり、教会から自然と足が遠のきました。聖書を時々読むことはあっても、祈ることも減ってしまいました。聖書という土台がなくなつたため、揺れ動く感情に支配され、友人や大学の先生の言葉に左右される生活となっていました。

就職して二年目の時、多くのストレスがあり、自然と「教会に行きたい」と思うようになりました。そして「教会を見つけたら洗礼を受けたい。私が信じる神様はキリスト教の神様お一人以外にいない」と思うよ

うになり、職場近くで教会を捜しました。けれども、行きたいと思う教会は、なかなか見つかりませんでした。

信仰の表明

そのような時、高校時代の恩師が私にキリスト教の本を送ってくださいました。その本に感動し、著者である先生が牧師をしている教会に通うようになりました。

ほどなく、神の子イエスをキリストを救い主と信じることを表明して、洗礼を受けました。その日は本当にうれしくて、喜びながら家に帰つたのを覚えています。

本をくださった高校時代の恩師はクリスチャンで、受洗した私に「信仰生活は細く、長く」という言葉を贈ってくださいました。これは恩師が洗礼を受けた時に、牧師先生からいただいた言葉だということでした。恩師は、友人と二人で洗礼を受けたけれど、友人は信仰から離れてしまった、と

話してくださいました。その時、私は「信仰生活を全うすることは大変なことだ。私も最後まで信仰生活を細く、長く送りたい」と心から思いました。今でも時々その言葉を思い出します。

試練の中の助け

クリスチャンになって、これからは神様に守られ、祝福に満ちた生活が続く、と思いました。

受洗の翌月、就職三年目に職場異動がありました。自分の希望だったので、自分のしたい仕事ができる、と思っていました。ところが、実際は試練の日々でした。新しい人間関係、仕事……、就職して二年間で学んだことが役に立たず、仕事を必死に覚える日々でした。他の同期は同じ職場に三年目で、楽しそうに仕事をしていました。なぜ自分だけできないのだと落ち込みました。神様を信じ、教会に通っているのに、なぜ神様は私を祝福してくれないのだろうか。

その試練の日々の中、教会の同年代の女性の友人たちが、礼拝後に私に熱心に聖書を教え、仕事の悩みを聞き、一緒に祈ってくれました。その中で、「神は……あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」(コリントの信徒への手紙一 10章13節)

「今しばらくの間、い

ろいろな試練に悩まねばならないかもしれませんが、あなたがたの信仰は、その試練によって本物と証明され、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と光栄と誉れとをもちますのです」(ペトロの手紙一 1章6、7節)

神様の導きを信じ

いつもイエス様が私と共にいてくださり、イエス様の平安がどのような時も与えられていると知り、祈ることができるのは私にとつて幸いです。信仰の友との交わりは、お互い励まし合、祈り合うことができ、とても楽しいです。

昨年結婚し、救世軍に転会しました。神様の導きを信じ、教会が変わっても私の神様はただお一人、信仰は一つです。祈りつつ信仰生活を全うしていきたいと思

います。
(渋谷小隊(教会)所属)

救いの始まり

一九八一年四月十九日、私が西麻布の教会で洗礼を受けたイースターの日です。この日、私に、イエス・キリストによる救いの扉は開かれました。その後は、活発な教会青年会の交わりの中で伸び伸びと過ごし、やがて教会の執事(役員)に選ばれて、より積極的に教会活動に加わるようになりました。気のおけない仲間たちと企画を実行し、笑いの絶えない教会生活でした。家庭の食事と呼んだり呼ばれたり、順風満帆に思われる生活は、仕事の都合で九州に転居するまで続きます。

救世軍へ

九州では、福岡から北九州へと移り住む中で、所属するべき「教会捜し」をし、やがて救世軍へと導かれました。私と妻は、一九九四年九月十四日、救世軍八幡小隊(教会にあたる)で兵士入隊式(正式に救世軍の信徒となることを表明する儀式)をおこなっていただきました。救世軍では、このような儀式の時に、必ず救世軍の旗を掲げます。軍旗は、救世軍の信条・信仰を表しているのですが、赤は、神が私たちの罪の身代わりとしてこの世に送られたイエス・

〈信仰の体験談〉

救いは波のように

ただひさ 藤田忠尚



キリストの贖いの血、青は神のきよさ、黄は三位一体の神―聖霊の火と力を表しています。この三色の軍旗の下で宣誓をした日の暗れがましさは、今でも忘れられない記憶です。

ところが、事情により私は救世軍を離れ、長い旅路が始まることになりました。その後は、他のキリスト教会で客員として礼拝を守り、信仰の灯を守ったつもりでいました。しかし、勤務先を辞め、個人事業を開業した後で、否応なく、本当の自分の力と、姿を見せられることになりました。

す。大企業ならではの、決然とした事業再編の断行により、私はあつと言う間に頼りにしていた顧客の大半を失うことになるのです。浸水する小船を必死で漕ぐ日々は、私の心も荒れさせました。預貯金を使い果たしてからは、支払いが迫るたびに喉はかれ、渴き」というのは決して「たとえ」ではないことを知りました。悲しいことに、経済的困窮は、心の内に教会に対する壁をもつくってしまいました。その一方で、他人よりも何よりも、間抜けな自分自身が信じられない生活の中で、唯一信じられたのは神様でした。支払いに窮するたびに、「神様、私にお金をください」と、真剣に祈りました。金額まであげてしつこく祈り、ようやく眠りにつくことができた日々のことを、今も思い出します。やがて、危地は脱

打ちのめされる魂

事務所経営は、当初こそ軌道に乗せるのに手間取りましたが、ほどなく安定しました。しかし、大手の企業グループを相手先にして安心を得たことが、その後

することができず、しかし私の心には、神様の形をした空洞が、空しく残されていたのです。

再び救世軍へ
実は、救世軍を離れてからも、歳末の社会鍋への献金は続けていました。顔を知られないように、よその街でおこなわれている社会鍋に献金を入れていました。しかし、ある年の暮れ、それをしそびれたことから、日曜日の夕方に思い切った八幡小隊を訪ねました。小隊を離れてから十余年の月日が流れていました。幸い小隊長(牧師にあたる)と引退した土官(伝道者)の方が親切に対応してくださいました。そして、その夜から不思議なことが起こり始めました。十余年ぶりに足を踏み入れた小隊会館にひっそりと佇んでいた三色の軍旗が、私の夢の中に出てく

るようになったのです。(私は、洗礼を受け、教会を捜した。しかし、そうではなかったのではないかと。私こそ、救い上げてくださった神様に捜されていたのではないかと。)寝苦しさの中で、そのような思いが脳裏に去来しました。その時、

「わがため十字架におもえばなみだはあめとぞふる」

という、救世軍歌集の歌詞が、まっすぐ私の心に飛び込んできたのです。次から次へと溢れてくる涙に耐えられなくなり、私は起き上がって答えました。「イエス様。私を軍旗のもとに戻してください。救世軍を通して天の御国へまいります。」

私は、次の日曜日から、懐かしい小隊の聖別会(礼拝)に出席し、復帰への道を踏み出しました。

救いの御手の中で

復帰した後、小隊のFさんという婦人が、十余年に

- 私の近くの救世軍を紹介してください。
- キリスト教についてもっと知りたいです。
- 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

ご氏名

ご住所

わたり、毎日私と妻の名を挙げて祈っていてくれたことを知りました。Fさんは昨年百歳で天に召されましたが、神様は、その痛切な祈りを聞いて、私を捜し出されたのかもしれない。神様の救いのご計画は、波のように私たちに寄せられます。人生という刺繍に織り出された黒い点は、たとえ、表面からは汚いしみのように見えたとしても、その裏地には、これらを繋いで意味あらしめる神様の糸が縫いこまれているのだと思います。

「すべてのものは、神から出て、神によつて保たれ、神に向かっているのです。」(ローマの信徒への手紙11章36節)

身体をふりしぼり、一心に神様の御名を呼ぶ時、新しい救いの扉は開かれます。その時、捜し出された人々は、喜びの声を上げてこう叫ぶのです。「信ずる者はみな、救われる！」

裏面にこの部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国 ロンドン) 日本司令官 勝地 次郎 (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp



救世軍感謝祭

各地から収穫の便りが届き、実りの秋を迎えました。

救世軍では、この時期、豊かな実りを与えてくださる神様の愛に感謝しつつ、「救世軍感謝祭」をおこないます。救世軍の活動を通して、様々な人々のニーズに応えるために、信徒自らが献金するとともに、地域の商店や事業所、家庭を訪問して、募金をお願いしております。

また、下記の最寄りの小隊、施設等で直接お預かりすることもできます。

皆様のご協力をお願いいたします。

2013 年～2014 年前半 募金結果報告

2013 年	
克己週間 (3～4月)	18,128,203 円
感謝祭 (9月)	18,634,372 円
社会鍋 (12月)	19,388,902 円

2014 年	
克己週間 (6月10日現在)	17,694,149 円
東日本大震災救援のための献金 (国内外から)	76,376,798 円

皆様のご協力に心から感謝いたします

救世軍では、国(または地域)のまとまりを軍国、教会にあたる所を小隊、信徒を兵士、伝道者を士官、その中で牧師にあたる伝道者を小隊長、各軍国の責任者を司令官、世界の最高指導

者(大将と呼んでいません)。伝道者や信徒は制服を着用して、救世軍に属するクリスチャンであることを表明し、礼拝を守るとともに、それぞれ自分にできる奉仕―病院や施設でのボランティア、街頭生活者への給食や日用品配布、災害被災者支援など―をおこなっています。また、創立時よりアルコール依存症で苦しむ人々を支援する働きをして、様々なニーズに迅速に対応するために、軍隊流の組織をとりました。

救世軍では、国(または地域)のまとまりを軍国、教会にあたる所を小隊、信徒を兵士、伝道者を士官、その中で牧師にあたる伝道者を小隊長、各軍国の責任者を司令官、世界の最高指導

者(大将と呼んでいません)。伝道者や信徒は制服を着用して、救世軍に属するクリスチャンであることを表明し、礼拝を守るとともに、それぞれ自分にできる奉仕―病院や施設でのボランティア、街頭生活者への給食や日用品配布、災害被災者支援など―をおこなっています。また、創立時よりアルコール依存症で苦しむ人々を支援する働きをして、様々なニーズに迅速に対応するために、軍隊流の組織をとりました。

現在、どの国においても 協力を呼びかけています。

医療や社会福祉の働き、緊急災害被災者支援をおこなっていること、神の愛と正義を伝えていきます。東日本大震災の被災地復興支援も、発生直後から継続して、同様に進められています。

救世軍とは The Salvation Army

過去に学び、現在を見据え、未来にはばたく 救世軍 120 150

来年 2015 年は、救世軍創立 150 年、日本で救世軍の活動が開始されて 120 年の記念の年です。イギリス・ロンドンでは、創立 150 周年万国大会、日本では記念行事(セミナーや青年大会)を開催します。(詳細は後報)

全国の救世軍小隊 (教会にあたる)

北海道連隊 (地区) 遠軽小隊 釧路小隊 帯広小隊 札幌小隊 函館小隊

関東東北連隊 (地区) 仙台小隊 浪江小隊 (現在休止中) 若松小隊 新潟小隊 前橋小隊 高崎小隊 桐生小隊 佐野小隊 熊谷小隊

東京東海道連隊 (地区) 川口小隊 清瀬小隊 西新井小隊 江東小隊 上野小隊 神田小隊 京橋小隊 月島小隊 麻布小隊 渋谷小隊 杉並小隊 大森小隊 横浜小隊 清水小隊 静岡小隊 浜松小隊 名古屋小隊

西日本連隊 (地区) 京都小隊 天満小隊 鶴橋小隊 西成小隊 泉尾小隊 神戸小隊 岡山小隊 福山小隊 呉小隊 広島小隊 高松小隊 高知小隊 八幡小隊 福岡小隊

社会福祉施設

保育所 北海道 桑園保育所 菊水上町保育園 札幌市しせいかん保育園 栃木県 佐野保育園 広島県 呉保育所

児童養護施設 東京都 機恵子寮 世光寮 大阪府 希望館 広島県 愛光園 豊浜学寮

婦人保護施設 東京都 婦人寮 新生寮

宿泊施設 (男子) 東京都 自助館 新光館

特別養護老人ホーム 東京都 恵泉ホーム 恵みの家(ユニットケア型)

ケアハウス

東京都 いずみ (恵泉ホーム併設) (併設: ホームヘルパーステーションいずみ)

老人保健施設

東京都 ブース記念老人保健施設グレイス (併設: 杉並区地域包括支援センター「ケア 24 和田」、ブース記念ケアマネージメントセンター和田、ブース記念訪問介護ステーション ルツ・ナオミ)

アルコール依存症者支援施設

東京都 自省館 (救護施設)、男子社会奉仕センター

●バザー場……東京都杉並区和田 2-21-2 オープン 毎週土曜 9～14 時 TEL. 03-5860-2992

●江東出張所…東京都墨田区太平 4-11-3 オープン 毎週土曜 10～15 時

病院

—両病院とも、(財)日本医療機能評価機構認定病院です 清瀬病院は、病院機能評価付加機能(緩和ケア機能)認定も取得

●救世軍ブース記念病院 (ホスピス併設) 東京都杉並区和田 1-40-5 Tel. 03-3381-7236

●救世軍清瀬病院 (ホスピス併設) 東京都清瀬市竹丘 1-17-9 Tel. 042-491-1411

発行日 毎月一日・十五日 定価 一日号一部五〇円(六六円) 十五日号一部六〇円(六六円) クリスマス特集号(十二月一日号) 一部一〇〇円(七七〇円) 一年分(二七〇円)送料七五〇円 振替 〇〇一八〇一五四四〇〇

(取扱支部) 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません)